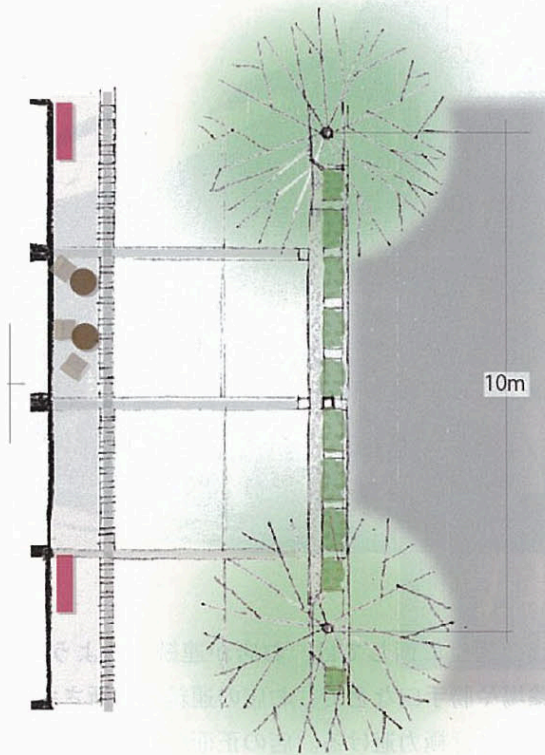


業平ならではの歴史、伝統文化などを感じられる要素を通りのあちこちに散りばめる。春慶寺などの文化資産をアピールし、また、各個店が、おすすめの逸品をショウウインドウに飾ったり、飲食店であれば、その日ごとにお薦めのメニューを店先の手書き看板などでアピールする。

6

b. 建築
ひと休みできる店先



店先に、ベンチなどを置いて、お客様が一休みできる場所を設ける。人のくつろぐ姿が、通りに店のもてなしをアピールすることにつながる。



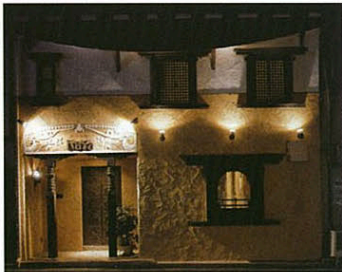


浅草通りに面しては、お店が連続するようにし、駐輪場や勝手口などで、お店の連続が分断されるようなことは極力避ける。店の正面が連続することにより、通りを歩く楽しみが、いっそうと増す。

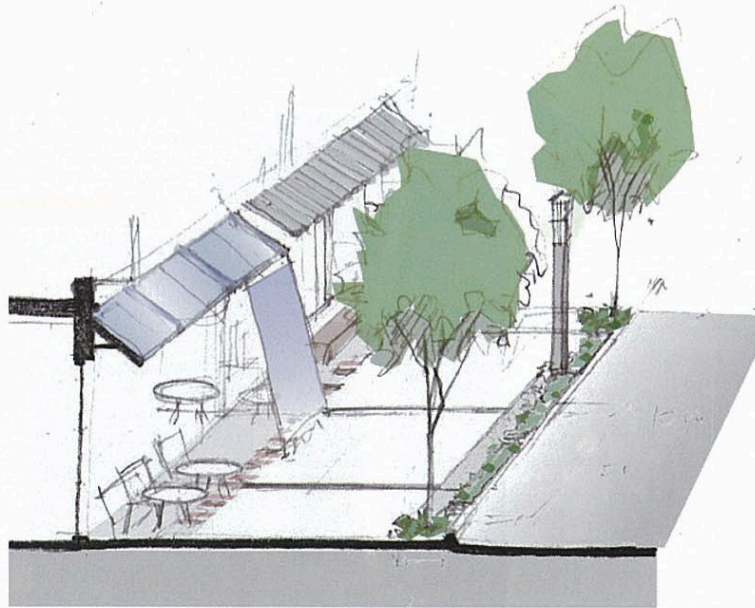


8

b. 建築
通りと会話する窓



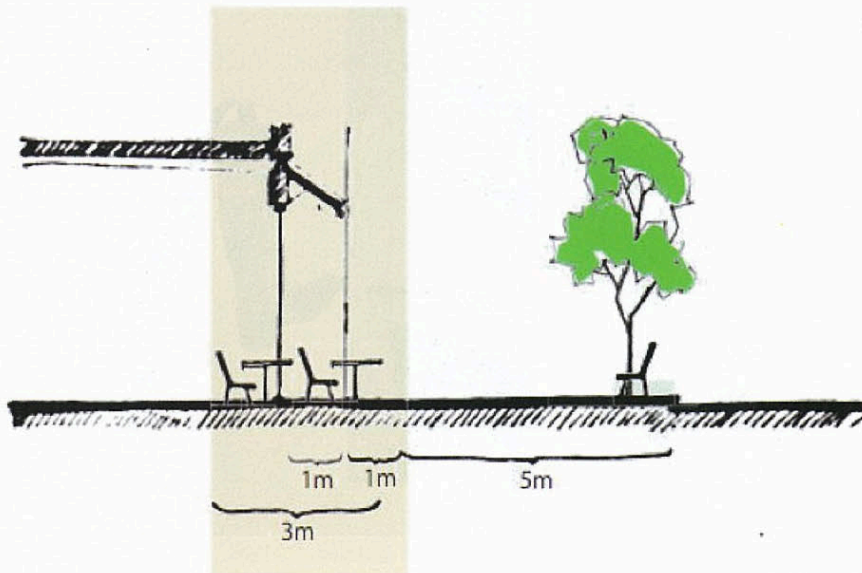
窓は単なる壁に開いた開口部ではなく、通りを歩く人に店をアピールするアクセントとする。



個店は、通りに対し、何らかの情報発信をする。飲食店などでは、中で食事を楽しんでいるお客様の姿が見えること自体が、店の魅力を通りに発信する格好の材料となる。



10

b. 建築
お客を迎え入れる庇

店先の庇は、商品を雨や日差しから守ると共に、歩行者にお店をアピールする要素となる。また、庇の下は店の中と外の間中間的な性格になる。庇の下に歩行者の目に留まるような商品などを置くことで、店の外側から内側に入る、お客様の精神的な敷居を下げることができる。